

中生、晩生品種とも出穂期は「平年より 1 日早い」見込み！  
適期・適量の穂肥施用で、品質の確保を！

－ ここがポイント －

- 1 幼穂を必ず確認し、適期に適量の穂肥を施用する。
- 2 幼穂形成期以降の水管理は、「飽水管理」とする。

1 生育状況（7月10日現在）

○前回調査(6/28)から草丈が急伸長(約 2.2cm/日：平年 1～1.5cm/日)！

コシヒカリ：草丈「並」、茎数「並」、葉数の進み「並」、葉色「やや濃」

こしいぶき：草丈「並」、茎数「多」、葉数の進み「並」、葉色「濃」

新之助：草丈「並」、茎数「少」、葉数の進み「並」、葉色「並」

品種		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD 値)
コシヒカリ (調査点数 9)	本年値	68	448	11.1	36.8
	目標比・差	102 %	97 %	-0.2	+1.2
こしいぶき (調査点数 3)	本年値	61	549	11.8	39.2
	目標比・差	99 %	114 %	+0.1	+2.2
新之助 (調査点数 3)	本年値	54	514	11.2	35.3
	目標比・差	104 %	89 %	+0.2	-0.7

2 今後の天気（7月7日～8月6日：新潟地方気象台7月5日発表）

・気 温：	低い確率 10%	平年並の確率 30%	高い確率 60%
・降 水 量：	少ない確率 20%	平年並の確率 40%	多い確率 40%
・日照時間：	少ない確率 20%	平年並の確率 40%	多い確率 40%

3 出穂期予測と穂肥時期・施用量のめやす

- (1) 中生、晩生品種とも出穂期は「平年より 1 日早い」と予想される。
- (2) 出穂期は今後の気象条件で大きく変動することもあるため、今後の情報に注意する。

品種名	幼穂 形成期	出穂期	穂肥時期のめやす(出穂前日数)		合計窒素量 (kg/10a)
			1 回目	2 回目	
中 かがねもち	7/9	8/1	7/14～7/17 (18～15)	7/22 (10)	1～3
生 コシヒカリ	7/13	8/5	7/18～7/21 (18～15)	7/26 (10)	1～3
晩生 新之助	7/18	8/11	7/21～7/24 (21～18)	7/30～8/1 (12～10)	2

※中生品種 5/5 植え、新之助 5 月中旬植えを想定

## 4 穂肥施用時のポイント

穂肥の施用時期は、必ず幼穂長を確認してから決める。また、有機質由来窒素が50%以上の肥料は施用を2日程度早める。

### (1) 早生品種

品質確保のため、2回目穂肥は適期（1回目穂肥の10日後頃）に確実に行う。

### (2) コシヒカリ

#### 《分施肥体系》

##### ア 1回目穂肥は出穂期18日～15日前の施用を基本とする。

ただし、生育診断（草丈と葉色）に基づき時期・量を調節する。

- ① 草丈、葉色とも基準値（下表）以下 → 基準量を施用
- ② 草丈基準値以下、葉色基準値より濃い → 葉色の低下を待ち施用を判断
- ③ 草丈基準値以上、葉色基準値より薄い → ムラ直し程度に施用
- ④ 草丈、葉色とも基準値以上 → 施用しない

#### 〈出穂18日前の生育のめやす〉

診断項目		基準値
草丈		75cm
葉色	SPAD	32～33程度
	葉色板	4.2程度

#### 〈幼穂長と出穂前日数の関係〉

出穂前日数	幼穂長(cm)
24日	0.1
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0

##### イ 2回目穂肥は出穂期10日前に確実に行う。

2回目施用後も葉色が低下する場合、3回目穂肥（出穂期3日前までに、窒素成分1kg/10a程度）を施用する。

#### 《一発基肥体系》

出穂期に葉色がSPAD値33を下回ると予想される場合、出穂期10日前頃に追加穂肥（窒素成分1kg/10a程度）を施用する。

## 5 今後の水管理

- (1) 幼穂形成期以降は飽水管理とする（田面の足跡に水が残る程度になったら灌水する）。
- (2) 異常高温、強風フェーン時には速やかに湛水し、稲体の水分不足による障害発生防止に努める。

## 6 病虫害防除

- (1) いもち病 : コシヒカリBL以外の品種は、葉いもちを発見したら直ちに防除する。
- (2) 墨黒穂病 : わたぼうし及び昨年多発生したほ場では発病リスクが高いため、予防防除を徹底する。
- (3) 紋枯病 : 昨年発生が多かったほ場では防除を徹底する。
- (4) ごま葉枯病 : 秋落ちさせないよう、穂肥を適正に施用する。毎年多発するほ場では、予防防除を徹底する。
- (5) カメムシ : 雑草が結実しない間隔(3～4週間)で農道や畦畔の草刈りを徹底するとともに、適期に防除を行う。

## 7 新之助の管理（新之助研究会の方へ）

- (1) 幼穂形成期（出穂期24日前、幼穂長1mm）の生育目標

草丈：62～68 cm、 莖数：500～550 本/m <sup>2</sup> 、 葉色：33～36（SPAD値）
--

- (2) 穂肥施用 ～適期に確実に穂肥を施用する～

1回目 出穂期21～18日前、幼穂長2～10mmの頃

2回目 出穂期12～10日前、止葉の葉耳とその下葉の葉耳が並んだ頃（葉耳間長0cm）